

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600319		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道 株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 石狩花川		
所在地	〒061-3219 石狩市花川404-12 (電話) 0133-72-8870		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年1月7日

【情報提供票より】 (19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 9 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円		
その他の経費(月額)	・水道光熱費 21,000円 ・暖房費 5,000円(11月～3月)		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	3名	要介護2	8名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.6歳	最低 74歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花川病院 ・ ラビット歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛の家グループホーム石狩花川は、開設して3年が立ちホームの基盤も出来つつある落ち着いた雰囲気のあるホームである。居室、居間、トイレ等も目配りが行き届く配置になっている。代表者の運営理念、方針が明確でありサービスに対する熱意が職員にも伝わっている。利用者本位の意味を大切に、自由で誇りのある暮らしを続けることを、管理者、職員が積極的に熱意を持って支援している。管理者と職員間の信頼関係も厚く、職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいるホームである。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価での改善点は、契約書に権利、義務についてわかりやすく明示すること、ホームの表示が少なく分かりづらいこと、職員の研修への参加などであった。改善については、職員の研修会も2ヶ月に1度開催するなど改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価を念頭に、各ユニットごとに全職員が自己評価に取り組み、その内容を職員間で検証し管理者がまとめている。評価の意義を管理者、職員は理解し日々のサービスを振り返りながら、ケアの見直しなどにつなげて行くよう取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、会議では前回の会議報告、ホームの行事活動報告、検討事項等について家族、町内会役員等参加者からの活発な意見交換が行なわれている。参加者からの意見を聞いて、それをミーティングなどで話し合いサービスの向上に活かしている。市町村は利用者サイドの相談窓口だけではなく、事業者サイドの相談機関でもあるので連携を取りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が来訪時に、気軽に苦情、要望などを話してもらえぬ雰囲気づくりに配慮している。また、運営推進会議に利用者、家族も参加しており会議の中で意見を聞くことが出来、出された意見、要望はミーティングで話し合いサービスに反映させている。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会行事(夏まつり)に参加し、ホームの駐車場を貸し出している。ホームの裏の畑を近所の方と一緒に野菜づくりをしている。また、認知症についての相談を行っており積極的に地域との交流を持つようになっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念から、地域密着型サービスとしての理念に変更になって、住み慣れた地域での安心した暮らし、地域との関わりについて日常的に地域との交流を持つ場面を積極的に作り、独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の壁や、廊下の壁に理念が掲示してある。職員は理念の実践に向けて、ミーティングなどで話し合ったり、日々の現場で伝えたり取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に声をかけたり挨拶をしている。町内会に加入しており、町内の行事(夏まつり等)に参加しホームの駐車場を貸出している。ホームの裏の畑で近所の方と一緒に野菜作りをしている。また、認知症についての相談なども積極的に行なっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めた。改善が必要なところは、職員会議で話し合い改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、前回の運営推進会議報告、行事等活動報告、検討事項について活発な意見交換を行い、参加者からの意見を聞いてそれをサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議に参加している。市町村は利用者サイドの相談窓口だけではなく、事業者サイドの相談機関でもあるので連携を取りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりや、健康状態についてそのつど連絡している。また、「ホームたより」を発行し個別にコメントを入れるなど、ホームの暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに配慮している。意見箱の設置、家族へのアンケートを送付し意見をもらうようにしている。出された意見、要望についてはミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの交代には、申し送りを徹底し利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員経験などをふまえ、2ヶ月に1度社内研修、外部研修に参加している。また、それらの研修報告は毎月の全体会議で発表している。研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所経営のグループホームとの定期的な交流会、研修を行ってサービスの質の向上をめざしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り入居前に、本人、家族に見学の機会をもち、利用者と一緒に行事に参加したり、昼食をとるなどホームの雰囲気に馴染めるように家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や、散歩など利用者と一緒に活動することで、人生の先輩である利用者から教えてもらう場面もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声をかけたり、言葉などから情報収集しそのつど検討を行ない支援している。意思疎通が困難な方には家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の生活、見守りの中で、本人、家族、職員からの情報を聞き、カンファレンスを行ない介護計画に反映させるようにしている。また、職員間のチームワークがよく活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間内に見直しを行なっているが、期間中に利用者の身体状態の変化や、本人、家族の要望に応じて早急な見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院、外出等の送迎など必要に応じて支援している。家族の宿泊にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する主治医がおり、定期的に通院時に家族が付き添えない場合は、スタッフが付き添うなどの支援を行い結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、現在具体的な取り組みは行われていないが、職員体制、医療連携体制等について事業本部内で検討中との事であるので今後の取り組みに期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを考慮しつつ周りに悟られないように、言葉かけや敬意のある対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、希望を尊重して活動も押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を活かし、食事の後片付けをスタッフと一緒にやるなど、利用者の力量に合わせた支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間帯の入浴は行っていないが、できる限り本人が希望する時間やタイミングに合わせて入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、身体状態などを見ながら、散歩、買い物、利用者の得意なことを力量に合わせた楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の体調を考慮しながら、散歩に付き添うなど、その人に合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないことの大切さを理解し実践している。夜間帯は防犯上の理由から施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急、災害マニュアルを作成してある。また、年2回避難訓練を実施しており、地域のハザードマップに緊急時の避難誘導必要区域に入っており、地域の方々の協力が得られるようになっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所本部の栄養士の指示のもと、栄養バランス、カロリー計算など利用者に合わせた食事の提供を行っている。また、各ユニットに調理員がいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居室、トイレなどバリアフリーになっており、廊下の壁には利用者の行事の時の楽しそうな写真が多数貼ってある。廊下のつきあたりには半円形になったベンチが設置されており、ゆったりと過ごせるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い馴れた馴染みの家具や、ソファなどが持ち込まれており、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。